

運送業界の健康支援を生きがいに

162 健診結果が返ったら、至急すべきこと

秋の定期健康診断結果は検査機関から届いていますか。健診の活用方法は幾通りもありますが、今回は最も優先すべき活用方法を説明します。

◆ハイリスク者の把握を

最初に行いたいのが、ハイリスク者のピックアップです。ハイリスク者のタイプには2種類あり、まずチェックを要するのは、「要受診」と記載のあるタイプです。

ドライバーさんの中に、「高血圧」の指摘を受けているにもかかわらず、「毎年こんなもの」と安易に捉え、受診を放置している方はおられないでしょうか。高血圧は痛い、痒いなどの自覚症状はありませんが、放置していると年齢とともに重症化し、脳梗塞や心筋梗塞を発症するという大

きなリスクを伴う病気です。あきらめず指導を繰り返し、それでも受診を拒否するようなら、その履歴(いつ、誰に)どのような指導を行ったか)を記録しておいてください。

◆複数の有所見者も危険

もう一方のハイリスク者は、複数の有所見を抱えている人です。項目ごとの数値が重篤でなくても、肥満、脂質異常、高血圧、高血糖の内、3項目以上基準値から外れると「怖い」というのが、本紙でも何度もお伝している、「死の四重奏」です。このタイプ

も、脳・心臓疾患予備軍ですので、労災の無料二次検診等を勧めてください。

◆全ト協の健診システム活用がお勧め

ハイリスク者をフォローアップする上で活用していたきたいのが、全ト協の「トラック運送事業者のための健康起因事故防止マニュアル」です。筆者が第4版まで執筆を手掛け、「再検査・受診を勧める通知&回答書」(25P)や、労災の無料二次健康診断を勧める通知(29P)のフォーマットがテンプレートで用意されています。プリントアウトもできます。

「ハイリスク者のピックアップすらできない」という事業者様には、本マニュアルと連動している、「運輸ヘルスケアナビシステム」の活用をお勧めします。本システムは「ハイリスク者の見える化」

を目的に構築され、費用の半額(1000円)は全ト協負担という、大変手厚いフォローアップ事業です。詳細は、全ト協・OCHISいずれのHPでもご覧になれます。

(次回は1月14日号に掲載)



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>